

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671600272		
法人名	社会福祉法人白寿会		
事業所名	グループホーム御所		
所在地	徳島県阿波市土成町宮川内字神田133番地1		
自己評価作成日	平成27年7月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は自然豊かな立地にあり、一年を通して四季を肌で感じる事が出来る。利用者の方も外に出る機会を多く持ち、園庭での散歩を楽しまれている。職員間で利用者の思いを出来るだけ実現できるよう個別ケアについての話し合いを多く持ち、利用者の暮らしが充実し、より良いケアに繋げていけるよう努力を行っている。又、主治医や訪問看護との連携を密にし、心身の状態把握に努め異変時の早期対応に繋げている。地域との繋がりをもち、世代間交流サロンやボランティアの方もたくさん参加頂いての祭りが実施されるなど、地域に開かれた施設としての取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は豊かな自然に囲まれており、四季折々の景色を楽しむことができる。事業所では、利用者との散歩時に花を摘んだり、山菜などを採ったりしており、季節を肌で感じて暮らすことのできる環境にある。敷地内には、同一法人の運営する他サービス事業所が多数あり、協力しあって利用者支援に取り組んでいる。事業所の共有空間はゆったりとしており、職員は、利用者の姿をどこからでも見守ることができる。台所から調理の音やにおいを感じることができる。利用者の状況に応じて、談笑したり、本を読んだりして、思い思いにゆったり過ごしている。また、利用者の思いをなるべく多く実現することができるよう個別ケアに取り組んでおり、寄り添ったり、話し合ったりする機会を多く設けるよう努めている。また、事業所では、地域との関わりを深くもつよう努め、福祉協力員や近隣の保育センターの子どもたちとの交流、地域の中・高等学校の研修生の受け入れなども行っている。事業所の行事や祭りには、地域の子どもや住民の参加を得るなどして世代間交流も推進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が考えた独自の理念であり、常に認識出来るようホーム内に掲示を行い、理念を共有し指針として実践に活かしている。	全職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作っている。職員は機会あるごとに理念を振り返り、日頃の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域福祉協力員の来訪や近隣施設との交流、地域での清掃活動に参加し、地域との繋がりを築いている。又施設行事には、地域ボランティアの方の協力を頂いている。	毎月、福祉協力員の来訪がある。また、保育センターとの交流もあり、利用者の楽しみのひとつとなっている。利用者や職員で、近隣の事業所や地域の行事へ参加し交流を図っている。また、事業所の行事にも地域の方やボランティアに参加してもらっており、双方向的な交流となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の職場体験を積極的に受け入れ、認知症への理解を深めて頂いている。訪問のあった地域の方への相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域の代表、ボランティア、民生委員の方の参加があり、利用者の状況や実施行事報告、取り組みなどを報告し、問題等には参加者から助言を頂き、職員に伝達しサービスの向上に努めている。会議報告書はご家族に送付している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。家族や地域住民の代表、地域包括支援センター職員等の出席を得ている。会議時には、利用者の状況や事業所の取り組みなどを報告している。出席者から様々な意見を出してもらい、出された意見や要望をサービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の現状や待機者の状況など、毎月市の介護保険課へ報告。毎月のホームだよりの送付や、分からない事があれば連絡し、教えて頂いている。	日頃から職員は、市担当者や連携を図って相互に情報の交換を行っている。毎月、広報誌を送付するなどして、事業所の取り組みや実情を積極的に伝え、協力関係を構築するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は身体拘束の現状はないが、拘束の必要性が考えられる場合はご家族に説明し理解頂いた上で同意書に署名をして頂く事になっている。夜間は家庭と同じように、戸締りを行っている。	身体拘束の廃止に関する手引書とマニュアルを作成している。少なくとも年1回、職員研修を開催し、拘束の具体的な内容の理解や廃止に向けた取り組みについて共有化を図っている。見守りを中心とした支援を心がけ、利用者が外出を希望したときなどには付き添うようにしている。住民や近隣の事業所から協力を得ることのできる関係を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より利用者の尊厳を考え内的世界を理解する事で、虐待のないケアを行っている。又、定期的に勉強会を行い、ケアの見直しの機会を多く持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用されている方がいる為、管理者職員は必要性を理解している。活用を勧める必要は現段階ではなく、支援するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時は十分説明を行い、納得して頂いた上で同意を頂いている。大きく改定がある場合は家族会を開催し、個々の疑問、質問等には管理者が伺い対応させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望、意見を伺い定期的にアンケートを送付。頂いた意見を職員間で共有し、運営に反映させている。又、外部に苦情相談の窓口がある事を重要事項説明書に明示し、ホーム内にも掲示している。	日頃から、利用者や家族との関わりのなかで、意見や要望が言いやすい雰囲気づくりに留意している。定期的に家族へのアンケートを行い、年1回の家族会の機会に出された意見などについて話し合っており、運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や月に一度の勉強会で職員の意見交換を行い、運営の改善に努めている。管理者は現場に入りコミュニケーションを図り、意見を出しやすい環境作りを努めている。	管理者は、毎朝のミーティングや勉強会等の機会に職員が意見や提案を言いやすい雰囲気づくりに留意している。管理者は、日頃の業務を通じて職員の意向を把握するよう努めている。管理者は、職員の意見や意向を代表者に伝えている。また、就業環境の整備に努め、働きやすい職場環境に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の置かれた状況を把握し柔軟に対応、働きやすい職場環境に努めてきている。又、努力・功績に応じ賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員が年間多くの研修会に参加する機会があり、スキルアップに繋げている。又、法人外の研修の参加においては、現場で活かせるよう勉強会を行い、知識の共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの情報共有や、他施設への職場見学、研修などの機会があり、サービスの見直しや向上に取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に生活歴を把握し、新しい生活への不安が軽減出来るような取り組みを行っている。又、本人の要望を傾聴し、話しやすい関係作りを築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や家庭での状況を伺い、不安や心配事が軽減出来るようなアドバイスをを行いケアにも反映出来る様、初期の関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要としている支援を見極め、他職種との連携を取り、希望に沿ったサービスを提供出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の自立支援を支え、出来る事が継続でき、共に助け合い、笑顔の増える関係作り築き、楽しく生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より、利用者の状態を電話やホーム便りで伝え現状を理解して頂く事で、共に利用者を支援する関係作りにも努めている。又、誕生日にご家族を招待し一緒に祝って頂き、足を運んで下さる機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望に沿い外出援助を行ったり、併設施設や別フロアーにいつでも行き来し、交流が継続出来るような支援を行っている。	事業所では、本人や家族と相談したうえで、利用者の行きつけの美容院の利用や近隣のサービス事業所を利用している友人等との交流など、馴染みの場所や関係づくりの支援を行っている。本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係や社会との繋がりが途切れることのないよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で過ごす場所や時間を提供出来るよう、支援している。利用者間での支え合いや心配りも、随所で見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約終了後も家族より状態を伺い、相談等に応じたり面会に伺うなど関係性を保ち、又次への支援に繋げていけるよう努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを理解する為関わりを多く持ち、真のニーズを引き出せるように努めている。又、職員間でも利用者の思いを共有している。	職員は、日頃の利用者との暮らしのなかで、一人ひとりの話に耳を傾け、思いや希望を把握している。意思の表出の困難な方には、家族から情報を得たり、表情の変化や些細な仕草等から意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら家族や関係者の協力のもと、情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中から現状を把握し、本人の生活リズムやペースを大事にしたケアを行い、職員間でも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族からの意見や要望を踏まえ、本人の出来る事が今後も継続出来るよう、ポジティブプランも取り入れ、介護計画を作成している。	利用者や家族から出された意見や要望を踏まえたうえで、主治医の指示や意見、担当職員等の関係者間で話し合っ、その人らしい暮らしを続けるための介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、6か月に1回、見直しを行っている。また、利用者の状態に変化が生じた際には、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の様子など介護計画に沿った記録を行い、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や家族の要望に応じ、併設事業所の協力を得て、利用者の状況に応じたサービスの提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育センターや障害者施設との交流やボランティアの受け入れ、地域の福祉協力員の来園もあり、地域資源も活用し、楽しく生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望に沿い、かかりつけ医との関係を築きながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族と相談したうえで、眼科や歯科等の専門科の受診も支援している。家族の付き添いによる受診を原則としているが、困難な時には職員が同行している。また、協力医療機関と連携を図り、24時間の対応が可能な体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の状態変化があれば、看護職や訪問看護への相談を行い、早期発見に努め医療機関への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には早期退院を目指し、病院関係者・家族との情報交換を行っている。又、退院後は本人や家族が安心して施設での生活が送れるように、医療機関からの情報は職員に伝え、スムーズな対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を作成している。医療機関や訪問看護と連携し、終末期支援を行う事が出来る体制が整っている。又、本人・家族に終末期等の意向を確認し、定期的に意向に変更がないか確認を行っている。	契約時の段階で、本人や家族に重度化した場合や終末期の支援のあり方について説明し同意を得ている。状態の変化に応じて、意向について変更がないかを確認している。重度化対応指針を作成して医療機関や訪問看護と連携し、終末期の円滑な支援へと繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや個々の既往ファイルを作成している。全職員が広域連合の協力を得、救命講習を受けており、又訪問看護師からも初期対応に対する指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回併設施設と合同で、日中・夜間想定避難訓練を利用者も参加し実施している。地域消防団との協力体制も図られている。ホーム内・併設施設にも非常食の備蓄を行っており、十分な食料を備蓄している。	災害対策マニュアルを作成している。年2回、同一法人の運営する併設の他サービス事業所と合同で、日中と夜間を想定した避難訓練を利用者とともに実施している。地域の消防団や近隣事業所の職員の協力を得る体制が整っている。	併設の事業所とともに合同の避難訓練を実施しているが、今後は事業所のみでの避難訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			A	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より安心感のもてる丁寧な声掛けや対応に気をつけ、自尊心を傷つけないよう細心の注意を払っている。記録も保管し、個人情報保護に努めている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうことのないよう、職員は言葉かけやその人らしさを尊重した支援、自尊心を傷つけないケアを心がけている。職員は、利用者が自己決定しやすいような支援に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに沿い、気持ちを引き出せるようなコミュニケーションを図り、自己決定を支援している。生活リズムの中からも思いを汲み取れるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が自分のペースで過ごせるよう無理強いせず、利用者の立場に立つての支援を心掛けている。興味のもてる事があれば一緒に行動するなど、日々の暮らしを楽しめるような支援も行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の自己決定や、本人のおしゃれ感覚を尊重しアクセサリーや小物、行きつけの美容院でのカットや毛染めなど、その人らしいおしゃれを楽しんで頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片付けなど、可能な限り共にやっている。味付けをみて頂いたり、食事を楽しみにして頂けるような支援を行っている。又、利用者の意見や嗜好を栄養士に伝え献立に反映させている。	事業所では、利用者一人ひとりの希望等を聞いたり、利用者アンケートを実施したりして、一人ひとりの嗜好を把握するようにしている。利用者から出された希望は、管理栄養士に伝えて献立に反映している。利用者の状況に応じて、食事の準備や味見、後片付けなどの役割を担ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の低下している方には、栄養バランスの良い代替品を提供したり、咀嚼・嚥下状態に合わせた食事の提供を行っている。嗜好確認を行い、摂取量が確保できるような支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行うように声掛けを行い、清潔保持の支援を行っている。不具合があれば月2回の歯科診療日に診て頂き、咀嚼力の改善に努めている。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでのスムーズな排泄につながるよう、声掛けや誘導を行っている。又、改善がみられる方には紙パンツの使用を中止するなど、自立に向けた支援を行っている。	事業所では、利用者の排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握したうえでトイレへの誘導を行っている。本人の自尊心を損なうことがないよう、言葉かけやさりげない誘導を心がけている。夜間にもなるべくトイレでの排泄を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	咀嚼や嚥下状態の良くない方や水分摂取量が少ない方には、飲食物の工夫を行っている。個々の排便間隔に応じた対応を行い、不快感が軽減できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重し、いつでも気持ちよく入浴が出来るように支援している。体調や気分によってシャワー浴や足浴を行うなど、一人ひとりの状態や意向に沿った入浴に努めている。	利用者の希望に応じて、くつろいだ気分で入浴してもらえるよう支援している。利用者の体調によっては、清拭や足浴、シャワー浴で対応している。入浴を拒む方には、職員が交代したり、時間をずらして声かけをしたりして、気持ち良く入浴してもらえるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーや畳の上での休憩スペースを設け、思い思いに休息されている。就寝は本人のリズムに合わせ、良いタイミングで良眠に繋げられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬一覧ファイルを作成している。誤薬を防ぐ為服薬前には名前の確認を行い、内服薬変更の際には職員間で情報の共有を行い、症状の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人との関わりの中からこれまでの暮らしが継続出来るような取り組みを行っている。趣味として編み物、カラオケ、風船バレー、ラジオ体操など多くの方が一緒に楽しめるレクへの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調の良い日には、園内の散歩を楽しんだり、個別での希望にも応じて外に出かけ、気分転換をはかって頂いている。又、少し遠方に全体での外出が出来るような企画も考え実施している。	利用者は、天気の良い日には、前庭で日光浴や散歩を楽しんだり、行きつけの美容院等へ出かけたりしている。また、近隣の事業所を利用している知人を訪問したり、行事やレクレーションに参加したりしている。家族と相談し、個別の外出を支援している。月1回程度は、外食や遠方への外出を計画している。	



自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 A 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を多少持たれている方もおられ、お金を持つことで安心感を得ている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば通話の支援も行っている。家族の声を聞かれる事で安心感を得られている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節に合った飾り付けを行い、四季の移り変わりを感じて頂いている。歩行にも支障がないよう生活しやすい空間づくりになっている。	共有空間は広く、ゆったりとしている。職員はどこからでも利用者の姿を見守ることができ、安心・安全な環境整備に配慮している。事業所内には、季節の生け花や利用者が作成した作品を飾っている。利用者は、談笑したり、読書をしたりして、思い思いにゆったりと過ごしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の上などで気の合う仲間同士でゆったりと過ごせたり、一人でも独立しない空間の提供を心掛けている。利用者同士の互いを思いやる声掛けも見受けられる。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、馴染みのものを持参して頂き、安心感を持ち室温などにも注意しながら居心地良く生活して頂けるよう配慮している。	利用者が落ち着いて過ごすことができるよう、本人や家族と話し合い、使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込んでもらっている。居室には、家族の写真や作品を飾ったりしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線の整備を行い、居室に絨毯を敷き詰めたり、手すりを設置したりと一人ひとりの利用者が安全に生活出来るよう配慮している。居室が分からない場合は、ご家族の了解を得て目印をさせて頂いている。	

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B	B	B
			実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が考えた独自の理念であり、常に認識出来るようホーム内に掲示を行い、理念を共有し指針として実践に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域福祉協力員の来訪や近隣施設との交流、地域での清掃活動に参加し、地域との繋がりを築いている。又施設行事には、地域ボランティアの方の協力を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中高生の職場体験を積極的に受け入れ、認知症への理解を深めて頂いている。訪問のあった地域の方への相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域の代表、ボランティア、民生委員の方の参加があり、利用者の状況や実施行事報告、取り組みなどを報告し、問題等には参加者から助言を頂き、職員に伝達しサービスの向上に努めている。会議報告書はご家族に送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の現状や待機者の状況など、毎月市の介護保険課へ報告。毎月のホームだよりの送付や、分からない事があれば連絡し、教えて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は身体拘束の現状はないが、拘束の必要性が考えられる場合はご家族に説明し理解頂いた上で同意書に署名をして頂く事になっている。夜間は家庭と同じように、戸締りを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より利用者の尊厳を考え内的世界を理解する事で、虐待のないケアを行っている。又、定期的に勉強会を行い、ケアの見直しの機会を多く持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用されている方がいる為、管理者職員は必要性を理解している。活用を勧める必要は現段階ではなく、支援するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時は十分説明を行い、納得して頂いた上で同意を頂いている。大きく改定がある場合は家族会を開催し、個々の疑問、質問等には管理者が伺い対応させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望、意見を伺い定期的にアンケートを送付。頂いた意見を職員間で共有し、運営に反映させている。又、外部に苦情相談の窓口がある事を重要事項説明書に明示し、ホーム内にも掲示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や月に一度の勉強会で職員の意見交換を行い、運営の改善に努めている。管理者は現場に入りコミュニケーションを図り、意見を出しやすい環境作りを努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の置かれた状況を把握し柔軟に対応、働きやすい職場環境に努めてくれる。又、努力・功績に応じ賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員が年間多くの研修会に参加する機会があり、スキルアップに繋げている。又、法人外の研修の参加においては、現場で活かせるよう勉強会を行い、知識の共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの情報共有や、他施設への職場見学、研修などの機会があり、サービスの見直しや向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に生活歴を把握し、新しい生活への不安が軽減出来るような取り組みを行っている。又、本人の要望を傾聴し、話しやすい関係作りを築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や家庭での状況を伺い、不安や心配事が軽減出来るようなアドバイスを、行いケアにも反映出来る様、初期の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要としている支援を見極め、他職種との連携を取り、希望に沿ったサービスを提供出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の自立支援を支え、出来る事が継続でき、共に助け合い、笑顔の増える関係作り築き、楽しく生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より、利用者の状態を電話やホーム便りで伝え現状を理解して頂く事で、共に利用者を支援する関係作りに努めている。又、誕生月にご家族を招待し一緒に祝って頂き、足を運んで下さる機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望に沿い外出援助を行ったり、併施設や別フロアーにいつでも行き来し、交流が継続出来るような支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で過ごす場所や時間を提供出来るよう、支援している。利用者間での支え合いや心配りも、随所で見られる。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約終了後も家族より状態を伺い、相談等に応じたり面会に伺うなど関係性を保ち、又次への支援に繋げていけるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを理解する為関わりを多く持ち、真のニーズを引き出せるように努めている。又、職員間でも利用者の思いを共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら家族や関係者の協力のもと、情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中から現状を把握し、本人の生活リズムやペースを大事にしたケアを行い、職員間でも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族からの意見や要望を踏まえ、本人の出来る事が今後も継続出来るよう、ポジティブプランも取り入れ、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の様子など介護計画に沿った記録を行い、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や家族の要望に応じ、併設事業所の協力を得て、利用者の状況に応じたサービスの提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B 実践状況	B 実践状況	B 実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育センターや障害者施設との交流やボランティアの受け入れ、地域の福祉協力員の来園もあり、地域資源も活用し、楽しく生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望に沿い、かかりつけ医との関係を築きながら、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者の状態変化があれば、看護職や訪問看護への相談を行い、早期発見に努め医療機関への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には早期退院を目指し、病院関係者・家族との情報交換を行っている。又、退院後は本人や家族が安心して施設での生活が送れるように、医療機関からの情報は職員に伝え、スムーズな対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を作成している。医療機関や訪問看護と連携し、終末期支援を行う事が出来る体制が整っている。又、本人・家族に終末期等の意向を確認し、定期的に意向に変更がないか確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや個々の既往ファイルを作成している。全職員が広域連合の協力を得、救命講習を受けており、又訪問看護師からも初期対応に対する指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回併設施設と合同で、日中・夜間想定避難訓練を利用者も参加し実施している。地域消防団との協力体制も図られている。ホーム内・併設施設にも非常食の備蓄を行っており、十分な食料を備蓄している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より安心感のもてる丁寧な声掛けや対応に気をつけ、自尊心を傷つけないよう細心の注意を払っている。記録も保管し、個人情報保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いに沿い、気持ちを引き出せるようなコミュニケーションを図り、自己決定を支援している。生活リズムの中からも思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が自分のペースで過ごせるよう無理強いせず、利用者の立場に立っての支援を心掛けている。興味のもてる事があれば一緒に行動するなど、日々の暮らしを楽しめるような支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の自己決定や、本人のおしゃれ感覚を尊重しアクセサリーや小物、行きつけの美容院でのカットや毛染めなど、その人らしいおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片付けなど、可能な限り共に行っている。味付けをみて頂いたり、食事を楽しみにして頂けるような支援を行っている。又、利用者の意見や嗜好を栄養士に伝え献立に反映させている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の低下している方には、栄養バランスの良い代替品を提供したり、咀嚼・嚥下状態に合わせた食事の提供を行っている。嗜好確認を行い、摂取量が確保できるような支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行うように声掛けを行い、清潔保持の支援を行っている。不具合があれば月2回の歯科診療日に診て頂き、咀嚼力の改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B		
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでのスムーズな排泄につながるよう、声掛けや誘導を行っている。又、改善がみられる方には紙パンツの使用を中止するなど、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	咀嚼や嚥下状態の良くない方や水分摂取量が少ない方には、飲食物の工夫を行っている。個々の排便間隔に応じた対応を行い、不快感が軽減できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重し、いつでも気持ちよく入浴が出来るように支援している。体調や気分によってシャワー浴や足浴を行うなど、一人ひとりの状態や意向に沿った入浴に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーや畳の上での休憩スペースを設け、思い思いに休息されている。就寝は本人のリズムに合わせ、良いタイミングで良眠に繋げられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬一覧ファイルを作成している。誤薬を防ぐ為服薬前には名前の確認を行い、内服薬変更の際には職員間で情報の共有を行い、症状の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人との関わりの中から今までの暮らしが継続出来るような取り組みを行っている。趣味として編み物、カラオケ、風船バレー、ラジオ体操など多くの方が一緒に楽しめるレクへの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調の良い日には、園内の散歩を楽しんだり、個別での希望にも応じて外に出かけ、気分転換をはかって頂いている。又、少し遠方に全体での外出が出来るような企画も考え実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を多少持たれている方もおられ、お金を持つことで安心感を得ている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば通話の支援も行っている。家族の声を聞かれる事で安心感を得られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節に合った飾り付けを行い、四季の移り変わりを感じて頂いている。歩行にも支障がないよう生活しやすい空間づくりになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の上などで気の合う仲間同士でゆったりと過ごせたり、一人でも独立しない空間の提供を心掛けている。利用者同士の互いを思いやる声掛けも見受けられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、馴染みのものを持参して頂き、安心感を持ち室温などにも注意しながら居心地良く生活して頂けるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線の整備を行い、居室に絨毯を敷き詰めたり、手すりを設置したりと一人ひとりの利用者が安全に生活出来るよう配慮している。居室が分からない場合は、ご家族の了解を得て目印をさせて頂いている。		